

第3学年C組 国語科学習指導案

授業者 鎌田 佳佑
研究協力者 成田 雅樹、高橋 菜由
教材分析協力者 羽田 朝子

1 単元名 いろいろ見つけたよ お話の中のわたし

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

3年生になり、図書館が利用できるようになったことで、興味をもった本を自分で選ぶ機会が多くなった。特に、好みのジャンルの図書を選ぶ姿が多く見られる。4月に取り組んだ「きつつきの商売」の学習では、「お客さんにていねいに話せるし、音をきれいにさせるから『おとや』に合っている」など、文中に直接的な表現で明示されていないことを考察する子どもの姿も見られた。

しかし、複数の叙述を結び付けて読んでいる子どもの姿が見られる一方、登場人物の性格を読み取るとき、自分が着目した叙述だけで端的に判断する子どもの姿も見られた。

また、普段の生活の様子からは、友達の性格の一面のみを見て、付き合い方を判断するような様子が見られる。このような姿が見られる原因は、誰も多面性をもっており、その人の一側面のみを見るだけでは、他者の性格は深く理解できないということを実感できていないためだと考える。

(2) 単元について

本単元では、子どもたちが関心に応じて教材文を選び、登場人物の性格と自己の性格を重ねながら読み深めることを通して、人物の性格を読む学習を進めていく。そして、**教材文のどのような叙述から登場人物の性格や考え方を読み取ったのかを表したり、自分とどのような部分が重なるのか紹介したりするための言葉の獲得**を目指す。

また、登場人物の紹介を交流することを通して、友達が登場人物の性格をどのように捉え、表現しているかということを知ることができる。「自分が読み取った登場人物について、みんなにも紹介したい。」という相手意識をもつことは、登場人物と自分を重ねながら読み、性格を深く分析していくことの必要性につながっていく。そして、登場人物と自分とを重ねながら読みを進めていくことは、自身の性格を見つめ直す機会を得ることにつながるのではないかと考える。

関心をもった教材文を選び取り、読み取った登場人物の性格と自分の性格のどのような部分が重なるのかを適切に表現できる言葉を獲得しながら、自己理解を深めていく子どもの姿を期待し、本単元を設定した。

(3) 指導について

子どもたちが登場人物の性格を多面的に捉え、深い自己理解につなげていくためには、教材文の叙述から登場人物の性格をどの程度捉えられているのか把握したり、今後どのように読むと読みが深まっていくのか考えたりするための視点「学びのものさし」が必要である。登場人物の行動や会話といった叙述について、様々な角度からその意味を捉え、自分の言葉で表現できる子どもの姿を目指したい。

子どもたちが他者に対する多様な理解をする上では、読書による擬似的な体験をすることが有効であると考え。そこで、本単元の活動に入る前に、複数の教材文の読み聞かせを行う。単元の導入では、読み聞かせで出合った教材文の中から、「性格について、共感できる登場人物」を探しながら読書をする活動を設ける。また、登場人物の性格を読み取っていく個別の学習を進める中で、生まれた疑問を伝え合ったり、読みや表現の意味を確かめたりできる学習の場作りを工夫する。登場人物の性格について分析したことを自発的に交流し合いながら、意図的にグループや学級全体で交流する機会を設定することで、自分の学びをより多面的に見つめる機会を作る。

そして、単元の展開部では、登場人物の性格をより深く捉えるために、読みの方略を身に付けるミニ・レッスンの活動を取り入れる。登場人物の性格が明示されている表現を探す活動や、登場人物の行動や場面の様子から、明示されていない性格を読み取る活動を行う。そして、登場人物の性格を文章全体にちりばめられた叙述から読み取るという経験を共有することで、自分がこれまでどのように登場人物の性格を捉えてきたのか再認識する場とする。そして、ミニ・レッスンを通して読みの方略を身に付けることで、「登場人物の様々な側面から、性格を多面的に読み取る」という、この単元で付けたい力について、子ども自身が気付くことができるようにする。自分のこれまでの学習を省察し、より深い読みをしていくための目標をもたせる。そうして、登場人物の性格について本文中に明示された根拠を読み取ったり、複数の根拠を基にして読んだりするなど、「学びのものさし」を更新しながら、学習に取り組んでいけるような活動を設定していく。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格を多面的に捉えて読んでいく。
(C-40・41)
- (2) 登場人物の性格について読み取ったことを、自分の考えや経験と結びつけながらまとめ、交流する。
(C-40・41・65)
- (3) 自分や友達の性格をより深く理解するために、叙述を基にして、登場人物の性格が分かる言葉に着目して読もうとしている。
(エ)

4 単元の構想（総時数 9 時間）

きつつきの商売
登場人物の性格を、複数の叙述を関連付けて読み取る。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との 関連〉
1 2	(1) 教材文(複数)と出会い、 学習計画を立てる。 ・この登場人物は自分と似ている。 ・この行動をした理由は、どうしてか分かるかなあ。	・登場人物と自分を重ねながら読むことができるように、心に残った登場人物の言動を伝え合う場を設定する。	・自分が共感する登場人物の性格を読み深めていくために、進んで学習計画を話し合っている。 〈エ〉
3	(2) 提示された教材から一つ 選び、性格や考え方に共感 できる登場人物を見付ける。 ・「やさしい」とか、「親切」と書 かれているから、きつねは思い やりのある性格なんだ。	・「きつねのおきやくさま」を用い て、性格が明示されている叙述 を読むミニ・レクソンを行う。 ・性格に焦点を当てて読むことが できるように、これまでに出会 った物語の登場人物の性格を提 示する。	・登場人物の性格を、行 動や会話から読み取っ ている。 〈C-40〉
4	(3) 選んだ登場人物の性格を 読み取る。 ・かっぱや千代を助けようとする なんて、平吉は勇敢だ。	・「かっぱのかげぼうし」を用いて、 叙述によって暗示されている性 格を読むミニ・レクソンを行う。 ・叙述と読み取った性格の関わり が分かるように、ワークシー トに書き出す活動を設定する。	・性格や考え方につい て、共感した登場人物 に関心をもち、教材文 の叙述を基にして紹介 する内容を決めてい る。 〈C-65〉
5 本 時	(4) 前時まで読み取ってきた 登場人物の性格を見直す。 ・太郎の話し方は乱暴だと思っ たけど、その後の行動から、思い やりもある性格だと思った。 ・太郎の話したことや行動を深く 読んでいくと、乱暴なだけじゃ なくて、憎めない性格でもある と思った。	・「太郎こおろぎ」を用いて、登場 人物の性格について、複数の叙 述を基にして多面的に分析する ミニ・レクソンを行う。 ・自分がどのように登場人物の行 動や会話を読んでいたか自覚で きるように、同じ教材文を選ん だ友達と登場人物の性格につ いて確かめ合う場を設定する。 (学びのもののさしの更新)	・登場人物の性格を多面 的に読み取るための視 点を用いて、読み取っ てきた性格やその根拠 について友達と話し合 っている。 〈C-40〉
6 7	(5) 登場人物の性格を発表資 料にまとめる。 ・登場人物の性格をまとめてい くとき、注目するとよいところが 分かった。	・登場人物の性格と自分の性格を 重ねながら、多面的に見つめ直 すことができるように、前時 までに学習した読みの方略につ いて振り返り、確認する。	・ミニ・レクソンで身に 付けた読みの方略を生 かして、発表資料をま とめている。 〈C-40、41、65〉
8	(6) 前時までまとめた登場 人物の紹介をし合い、他の グループの友達と交流をす る。	・読み取ってきた内容を交流でき るように、ポスターセッション を行う場面を設定する。	・登場人物の性格につ いて読み取ったことを、 自分の考えや経験と結 び付けながらまとめ、 交流している。 〈C-40、41、65〉
9	(7) 学習を振り返る。 ・登場人物の性格を表す言葉は、 直接書かれていたり、行動やせ りふに書かれていたりする。 ・登場人物の性格は、せりふや行 動を組み合わせて読むと見えて くるのが分かった。	・第6・7時にまとめた発表資料 を用いて、読み方が深まってい るところや、できるようになっ たことを自覚できるようにする。	・自分の学習の成果が次 の学習に活かされるよ うに、単元を通して身 に付けた読みの方略に ついて、具体的に振り 返しを書いている。 〈C-40〉

◎本単元で育む主な資質・能力
登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を多面的に捉え、その人物像を自分と重ねながら読む。
〈C-40〉

モチモチの木
場面と場面とを関連付けて、登場人物の性格を読み取る。

5 本時の実際（5／9）

(1) ねらい 文章全体の中の複数の叙述に着目し、それらに関連付けて読む活動を通して、登場人物の性格を多面的に捉えることができる。 〈C-40〉

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
15分	<p>① 複数の叙述から人物の性格を読み取るミニ・レッスンを通して、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○多面的に人物の性格を読み取ろうとする目的意識を高めることができるように、「太郎こおろぎ」の複数の叙述から性格を読み取るミニ・レッスンを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人物の性格が分かる描写を的確に読み取ったり、それぞれの叙述に関連付けて読んだりするきっかけをつくるために、限られた叙述からのみ性格が読み取られているエラーモデルを教師が提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> めあて 物語のいろいろなところから、人物の性格を読み直そう。 </div>		
4分	<p>② 読み取った性格を出し合う。</p>	<p>○読み取ってきた性格と、その根拠を共有しながら話合いができるようにグルーピングを行っておく。</p>
15分	<p>③ 読み取った性格の根拠になっている叙述について話し合う。 〈予想される子どもの反応〉 【自他の考え方を比較する】 ▲自分で読み取ったことだけでも、ワークシートを完成できそう。 ・同じ「優しい」でも、違うところに注目したんだな。</p> <p>【複数の根拠から性格を考える】 ▲トロールは嘘をついてオッレをさらおうとしているから、ずるがしこい。 ・主人公に冷たかったのは、恥ずかしがっていたんだ。けれど、本当は主人公を心配する優しい性格だったんだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループでの交流を生かし、性格をより多面的に捉えることにつなげられるように、新たな読みの視点を得たり、妥当性を検証したりするといった、話合いをすることの意義を確かめる。 ○話合いを通して、性格の捉え方が深まっているのかが分かるように、分かったことをワークシートに付け加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 登場人物の人物像を多面的に読み取るための視点をを用いて、読み取ってきた性格やその根拠について友達と話し合っている。 〈C-40〉（発言・シート） </div>
7分	<p>④ グループで読み深められたことについて、モニターに提示したワークシートを基にして全体に紹介する。</p>	<p>○複数の叙述に関連付けながら性格を読むことのよさを確かめられるように、各グループの発表の際、文中のどの部分を根拠として性格を読み取ったか問いかけ、確かめる。</p>
4分	<p>⑤ 本時の学習を振り返り、紹介する内容を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 性格を詳しく読むには会話や行動など、いろいろな根拠を探す必要がある。 ある場面だけ抜き出しても、登場人物の性格は分からないんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の変容に気付くことができるように、本時の活動を通して確かめられたことに印をつける場面を設定する。 これまでの学習を価値付けながら振り返りを行うことができるように、次時以降、これまで学んできた読みの方略を生かして紹介練習をすることを伝える。

令和5年度 国語科実践・研究計画

部 員	○鎌田 雅子、鎌田 佳佑、菅野 宣衛
-----	--------------------

研究テーマ
自覚的に言葉の力を働かせ、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

1 研究テーマについて

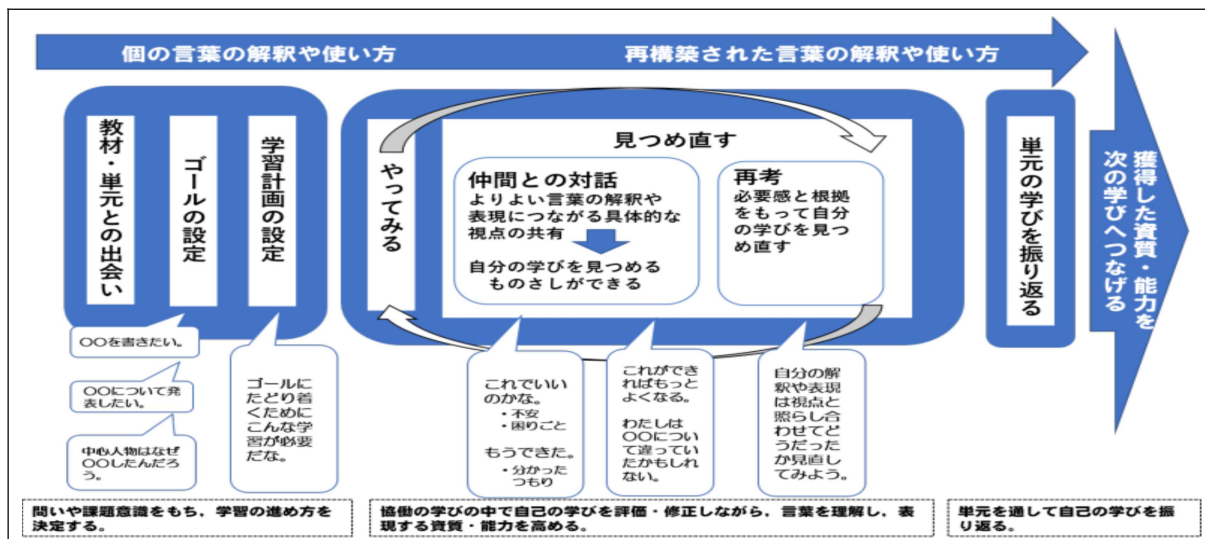
国語科の学習は、これまで何気なく使ってきた言葉を学習の対象として意識的に捉え直すことで「言葉がもつ力」を学び、自らの「言葉の力」を更新することである。この「言葉の力」は、情報の獲得・発信や他者とのコミュニケーションなど、日々の生活の中で行われる様々な言語活動の基盤となる。

言葉の選び方や用い方で受け手の印象が変わることに気付く、言葉と向き合ったときに生まれた問いを協働で解き明かす、というように、言葉に対する認識が新たになることに学ぶ楽しさを感じている姿が見られる。また、自分の発見を伝えるための構成や表現の工夫を見いだし推敲を始める姿から分かるように、学んだことを役立て活かそうとする子どもも多い。一方で、個々の魅力ある表現に子ども自身が気付かないまま新しく書き直していく場面も見受けられ、こうした前年度の実践の反省から、協働で見いだした読み方・書き方・話し方・聞き方とその効果を確かめた上で、自分に必要なものを取捨選択する力を高める必要が見えてきた。

そこで、相手や自分の伝えたいことを基に言葉を選ぶ過程を大切に扱う。仲間や教師からのフィードバックや揺さぶりを得る場を設定し、多様な言葉の解釈に触れる中で自己決定が行われるようにする。よりよい言葉の選択・決定の根拠として「学びのものさし」を更新して言葉と向き合う子どもの姿を期待し、本テーマで実践を積み重ねていく。

国語科で目指す自律した子どもの姿

- ・根拠をもって自らの解釈や表現を吟味し、言葉を正確に理解してよりよく表現しようとする姿
- ・言葉の効果や言葉に着目した学び方のよさを自覚し、単元を越えて活用する姿



図：国語科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

よりよい言葉の解釈や表現を生み出すために、協働で見いだした学びのものさしを更新して吟味する場の設定

- 「学びのものさし」を繰り返し活用しながら、自分や友達の言葉の解釈や表現を再検討する単元構成を工夫する。
- 子どもの実態に応じて「自分の考えはどのように変わったのか」「なぜ、そう考えたのか」「学んだことは何か」という視点で、自分の言葉に関する選択・決定を振り返る場を設定する。

8	ひとまとまりの語や文として音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
9	言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	■	■	■	■	■
10	強弱や間の取り方、抑揚の付け方などに注意して、読み取ったことがよく伝わるように音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	□	■	■	■	■
11	文章全体の内容や構成からその中心を把握し、軽重や速さなどを考えて音読する。		知(1)ク	知(1)ク			□	■	■	■
12	七音五音を中心としたリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	□	□	□	■	■	■
13	語り手や登場人物の人物像をとらえ、どのように語りたかを決め、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読する。		知(1)ク	知(1)ク				□	■	■
14	文章全体に対する思いや考えをまとめ、そのことを相手に分かってもらえるように表現性を高めて朗読する。			知(1)ク					□	■
15	目的に応じて、「比べ読み」「速読」「摘読」「多読」など多様な読み方を選択し、活用する。			知(1)ク					□	■
16	書かれている事柄の違いを比較することで、その意味が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
17	説明されている事柄の位置関係や構造を、図示したりしながら正確に理解する。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
18	事柄の原因と結果の関係が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
19	話の筋や論理の展開が分かる。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	■	■	■	■	■
20	書かれていることの特異性と一般性、具体性と抽象性の類別をして、文章の構造や内容を理解する。		C(1)ウ	C(1)ウ		□	□	■	■	■
21	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の大体を読む。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
22	「問い」と「答え」という基本構成をとらえ、「問い」に対する「答え」を読み取る。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	■	■	■	■	■	■
23	「始め」「中」「終わり」の文章構成をとらえ、中心となる文を手がかりに要点をまとめる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア		□	□	■	■	■
24	「序論」「本論」「結論」の三部構成をとらえ、中心となる段落を手がかりに文章の要旨をとらえる。		C(1)ア	C(1)ア				□	□	■
25	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係をとらえながら読む。		C(1)ア	C(1)ア			□	■	■	■
26	中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	■	■	■
27	筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているかをとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
28	事実を説明している言葉の指し示す範囲に揺れがないかどうか考える。		C(1)アウ	C(1)アウ				□	□	■
29	文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方、巧みな叙述などに注意して、求められている分量や表現の仕方に合わせて要旨をとらえる。			C(1)ア					□	■
30	筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験、考えたことと関係付け、自分の考えを明確にしながらか読む。			C(1)アオ					□	■
31	文章構成を区分することによって、文章の要旨や主題を的確にとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
32	図表や、絵、写真等が、どのように文章を補っているかを考えながらか読む。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	□	■	■
33	筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながらか読む。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	□	□	□	■	■
34	筆者の主張の根拠が適切かどうか考えながらか読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	■
35	結論と具体的事例の整合性を判断しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ					□	□
36	筆者の推論や解釈、例示などの妥当性を吟味しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ					□	□
37	物語に共感し、書かれていることの実偽や善悪、美醜、有用・無用の判断をしながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
38	事柄や人物の設定(誰がいつどこで何をした)が分かる。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
39	物語の展開に即して各場面の様子が変わったり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握し、その様子を想像しながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	□	■	■	■	■	■
40	登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、それらの人物像を読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	□	■	■
41	人物描写の特徴から、その人物のものの見方や考え方の特徴や言動の変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
42	物語のクライマックスを見つけ、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	□	■	■
43	各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
44	物語や詩の描写を、想像力を働かせながらか読む。		C(1)エ	C(1)エ			□	■	■	■
45	書かれていることを基に問いをつくり、答えを仮定したり根拠となる言葉を探したりする。		C(1)イエ	C(1)イエ		□	□	■	■	■

46	題名や見出しから、文章の要旨や主題を推察する。		C(1)イエ	(1)イエ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
47	情景描写の特徴から、作品主題との関連や人物のものの見方や考え方のありようを考える。		C(1)イエ	C(1)イエ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
48	一つ一つの事件・出来事の関連性から見出される意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
49	ストーリーの展開に気を付け、描写の特徴や言葉の象徴性など、読み取ったことがより豊かに伝わるように朗読する。		知(1)ク	知(1)ク				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
50	登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている心情を読む。			C(1)エ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
51	句読点の打ち方の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
52	反復が強調している事柄の意味が分かる。			知(1)ク	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
53	助詞や助動詞の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
54	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割が分かる。	知(1)カ	知(1)カ	知(1)カ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
55	文末表現によって文の意味合いが変わってくるのが分かる。	C(1)イウ	C(1)イウ	C(1)イウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
56	漢字・ひらがな・カタカナなどの表記の違いによって、多義的になったり、意味が限定されたりすることに気付く。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
57	オノマトベ(擬声語・擬態語等)の表現によって強調される意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
58	比喩表現(直喩・隠喩・擬人法等)によって強調されている意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)ク		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
59	省略、倒置、対句など、構成上の表現の工夫によって強調される意味・内容があることが分かる。			知(1)ク			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
60	使われている語彙・表現の多義性や象徴性を考える。			知(1)オ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
61	象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に生かしたりする。			C(1)オ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
62	自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文を適切に書き抜く。	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
63	自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意して読み、引用したり要約したりする。		C(1)ウ	C(1)ウ				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
64	感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して、自分の考えを感想文や解説文などにまとめる。			C(1)カ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
65	文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめて発表し合い、交流する。(劇、話し言葉による発表・交流、書き言葉で表したものを読み合う)	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
66	楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
67	身近な生活や自身の問題意識に基づいて選択する図書の方野を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
68	複数の読み物の内容から、共通点や違いを見つげながら読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
69	筆者や作者、ジャンルなどの関連を意識して、読書の幅を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
70	同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ筆者の複数の本や文章を選んで、読み比べる。			知(3)エ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
71	見出し・記事・写真の一貫性や「逆三角形の構成」など、編集の仕方や記事の書き方などに注意して新聞を読む。		C(1)ア	C(1)ア					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
72	昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
73	優しい文語調の短歌・俳句について情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。		知(3)ア	知(3)ア			<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
74	ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る。		知(3)イ	知(3)イ			<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
75	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。			知(3)アイ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
76	古典の解釈文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。			知(3)イ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

<国語科の学びを支える「見方・考え方」>

a 自分が伝えようとしている内容と言葉の関係に着目し、最も適した語句や表現技法を選び、その特長を活かして表現する。

b 語句の関係や表現技法の差異に着目し、文や文章表現の意味を豊かに、かつ具体的に理解する。

<領域の学びを深める「見方・考え方」>

話すこと c 音声の使い方、言葉や文末表現、表情などに着目して、その場に最も適切な表現を考える。

聞くこと d 相手の伝えようとする話の内容に着目して、自分の考えと比べるなどして共通点や相違点、関連などを整理しながら考えをまとめる。

書くこと e 目的や意図に応じた表現や文章構成になっているか、読み手の立場から、相手が読んで理解しやすいか考える。

読むこと f 構成や叙述に着目し、言葉や文を関係付けながら読む。